

# CONTENTS

- 2 情熱の奥州人
- 4 平成24年 奥州市長 辰年の決意
- 6 平成24年新春企画 10人に聞く新年の抱負
- 10 申告相談が始まります
- 12 簡易放射線測定器を貸し出します
- 13 平成24年経済センサスー活動調査を実施  
高齢者福祉と介護保険事業計画の説明会を開催
- 14 伊手熊野神社蘇民祭・黒石寺蘇民祭
- 15 市の出来事から
- 16 まちの話題
- 18 つながれ 広がれ NPOの輪
- 20 子そだて広場  
わが家のアイドル
- 21 消費生活相談Q&A  
市長コラム「おうしゅう羅針盤」  
子ども喜ぶ人気メニュー
- 22 キラリ人輝く  
夢トーク
- 23 クラブ紹介  
ぼんたのつぶやき
- 24 暮らしの情報
- 28 奥州遺産

## 〈今月の表紙〉



新年を迎え、市内各地の神社では、初詣に訪れた家族連れなど大勢の参拝客でにぎわいました。水沢区中上野の駒形神社には、正月三日で約12万人が訪れ、拝殿前には参拝を待つ長蛇の列ができていました。

写真は、同神社に家族で訪れていた女の子が参拝している一枚。参拝客は、家内安全や無病息災、学業成就など新しく迎えた一年の幸を祈っていました。



愛馬タビーと共に牧野へ向かう小織さん。

一面の銀世界となった衣川区大森の牧野を、元気に駆け回る2頭の馬と1頭のポニー。その姿を、温かいまなざしで追う吉野小織さん。

小織さんは昭和53年、平泉駅前の和菓子屋に生まれた。「小さなころは、ほかの家のペットを見に道草ばかりしていた」と動物好きの素顔をのぞかせる。北海道の大学を卒業後、道内の牧場に就職したが、衣川区に住む一人暮らしの祖母が気に掛かり帰郷。24歳で衣川の住人となった。

馬との出会いは、製パンと有機農業を学ぶために訪れていたドイツ。「ホームシックにかかり、初めて乗った馬から伝わる体温に慰められた」と目を細める。帰国後も馬に携わる仕事を求め、ニュー

ジーランド村の引き馬係になった。平成20年、世話をしていた馬のタビーが引退すると聞き、引き取ることを決意。以来、平泉町の温泉で働きながら、大森の厩舎で愛馬の世話に当たる。23年には仲間と共に、学校などでポニーの乗馬体験も始めた。「大地震のときは、心配で厩舎に泊まった」と照れ笑いを浮かべる。

5町の水田では、不耕起栽培に取り組み、グリーンツーリズムの受け入れは3年目を迎える。「馬は、全くの趣味。子どもたちが馬の魅力に触れ、楽しい思い出として残ってくれば」と語る小織さん。現在、牧野には子どもたちのために、ログハウスを建設中。小織さんの夢の牧場はまだまだ広がっていく。



16

# 馬は自然の中での生き方を 教えてくれるパートナー

吉野 小織さん（33歳）  
|| 衣川区九輪堂 ||



よしの・さおり◎昭和53年平泉町字泉屋生まれ。平成14年北海道から帰郷。奥州平泉温泉勤務。タビー、ダンディー（馬）、きくま（ポニー）、ブランカ（猫）と暮らす